

あいち農産物生産流通レポート

2023年10月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ トマト養液栽培の品質向上・減肥につながる窒素日施用管理技術を開発	(農業総合試験場) 1
◎ 東日本情報	
・ 全国規模の国産農林水産物・食品の展示会が開催されました	(東京事務所) 2
◎ 西日本情報	
・ 愛知のふるさと食品コンテストの取組について	(食育消費流通課) 4
・ 愛知県産ブランド米「愛ひとつぶ」について	(園芸農産課) 6
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	7
・ 名古屋・東京市場における青果物の10月の見通し	8
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の10月の見通し(県内市場)	20

※今月「地域トピックス」、「フラワーページ」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

トマト養液栽培の品質向上・減肥につながる窒素日施用管理技術を開発

農業総合試験場

1 背景と目的

トマトの養液栽培では、液肥を数回～十数回に分けて毎日給液し、生育段階によって肥料濃度を変える施肥が行われています。この場合、肥料濃度は給液の電気伝導度（EC）の値で管理（EC管理）します。しかし、EC管理で肥料濃度を一定に保つても、1日の給液回数は生育や天候に応じて変動するので、施肥量の把握は容易ではありません。そのため、窒素の過剰施肥による栄養成長過多が原因で品質が低下する事例がみられます。

そこで、施肥を量的に管理することを目的として、生育段階ごとに1日の適正窒素施用量を設定し、その量を午前中に数回に分けて液肥給液で与え、午後は水給液のみとする「窒素日施用管理技術」の開発に取り組みました。

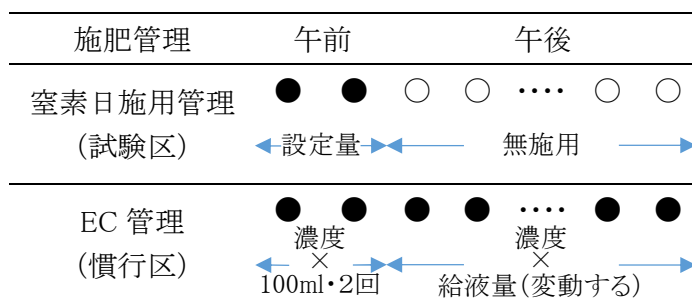


トマト養液栽培試験の様子

2 試験内容

生育段階ごとに設定した施肥量（株当たり10～120mgN/日）を与える窒素日施用管理区（試験区）と、生育段階によって肥料濃度（0.8～2.2ds/m）を変えるEC管理区（慣行区）を設置し、2020年8月から2021年6月にかけて栽培試験を行いました。

両区ともに午前中に100ml/株の液肥給液を2～4回行い、午後は日射比例制御により、試験区は水が、慣行区は液肥が自動で給液されるようにしました（図1）。



●：液肥給液 ○：水給液 ←→：窒素施肥量/株
注) 午後の給液回数は日射量に比例して変動

図1 栽培試験のイメージ（午前給液2回の場合）

3 試験結果

窒素日施用管理により、果実は大きくなり、収量が増加しました。また、培地内の肥料濃度が低く推移することで、出荷できない尻腐れ果の発生率が1/10以下に減少し、良果率が向上しました。その結果、良果収量は36%増加しました（表1）。

さらに、1作（8月中旬から翌年6月下旬までの約10か月）に使用した窒素施用量は、慣行区に比べ約4割削減できました（図2）。

表1 収穫調査結果

区名	総収量 (kg/株)	平均果重 (g)	良果率 (%)	良果収量 (kg/株)	尻腐れ果 (個/株)
試験区	11.6	157	83.8	10.1	0.8
慣行区	10.5	138	68.8	7.4	13.8

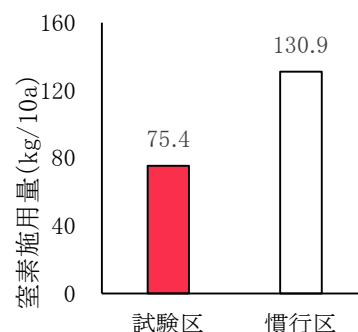


図2 1作の窒素施用量

本研究は、トヨタネ株式会社、愛知県経済農業協同組合連合会との共同研究で実施しました。

全国規模の国産農林水産物・食品の展示会が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

国産農林水産物・食品の展示会「第16回アグリフード EXPO 東京」(主催：日本政策金融公庫)が2023年8月23日(水)と24日(金)の2日間、東京ビッグサイト(東京都江東区有明3丁目)で開催されましたので、その概要を紹介します。

1 「アグリフード EXPO 東京」について

本イベントは、地域性豊かな国産農林水産物・食品の国内外への販路拡大をサポートする展示会です。今回の開催では、全国各地の農林水産業や食品に関わる企業・団体が出展し(出展者数：計465)、入場者数は2日間で計8,889名、商談件数は21,844件となりました(主催者発表)。

また、国の施策では国産農林水産物・食品の輸出市場開拓を重点的な取組としていることから、今回の展示会では輸出拡大に向けた支援や、輸出や物流などの課題に対する相談も併せて行われました。



会場の様子

2 展示内容について

会場内には、北海道から九州・沖縄に至る9つの展示エリア、セミナー会場、輸出や物流などに関する出展者向け相談コーナーが設けられていました。

展示エリアでは全ての都道府県から企業・団体の出展があり、愛知県からは10社の出展がありました。いずれも自社の商品に地元産または県内産の農産物、もしくはこれらを原材料に用いていることをPRしていました。出展している10社のうち9社はいいともあいちネットワークの会員であり、一部の出展者からは、愛知産農産物を用いた商品づくりを活発化させるために、県が今まで以上に会員同士のマッチングを促す取組を行ってほしいという要望がありました。

今回の展示会では、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行したことから、ほとんどのブースにおいて自社商品の魅力を伝えるための試食が盛んに行われていました。



愛知県の出展者ブースにおける自社商品の事例

〔 左：発酵飼料で育てた豚肉の加工品、中央：本県育成品種「きぬあかり」を使用したうどん、
右：本県育成品種「やわ恋もち」を使用したカステラ 〕

また、出展者向け相談コーナーでは輸出支援や物流関係などについて、農林水産省、経済産業省、日本貿易振興機構（ジェトロ）、日本植物防疫協会などの関係機関の専門家が出展者の様々な課題に対するアドバイスや支援事業の紹介を行っていました。

3 セミナーについて

セミナー会場では、1日目に輸出とインバウンド（訪日外国人旅行）の促進に関するトークセッション、2日目に輸出支援プラットフォームの講演が行われましたが、1日目のトークセッションに参加することができましたので、要点を紹介します。

○テーマ

国産農林水産物・食品の輸出とインバウンド観光促進の相乗的拡大に向けて

○要点

- ・輸出には、生産者や企業、行政など地域が連携して取り組む必要がある。
- ・地域の資源が非常に Valuable（貴重な、価値のある、役に立つ）であることに気づく必要がある。地元の人が地元の魅力に気づいておらず、早めに対応する必要がある。
- ・海外旅行者が、日本で食べたものを自国に帰った後も食べたいと思うことができれば、インバウンドと輸出の好循環が期待される。
- ・日本のコンテンツ（アニメ、ゲーム、映画など）を通じた日本食のPR力は大きい。
- ・海外でどのような日本食が受け入れられるのかは分からない。現地に行き肌で感じる、政府機関から情報を得るなど幅広く情報を得る必要がある。インバウンドと日本食の人気をどうつなげるかは正解がないので、生産者や企業、行政のそれぞれが探る必要がある。

コロナ禍が明け、インバウンド需要の拡大が期待できる状況となり、本県としても訪日外国人向けの農産物消費拡大の施策を充実していく必要があると考えられます。

愛知のふるさと食品コンテストの取組について

食育消費流通課


愛知県では、県産農林水産物を活用した加工食品を新たに掘り起こし、農林水産物の利用拡大と生産振興に資することを目的として、1998年から「愛知のふるさと食品コンテスト」を毎年開催しています。

今年度は応募のあった17商品について、書類審査（技術又は製品の新規性、県産原料の利用度、独創性、郷土色の豊かさ、包装デザイン、ネーミング、広告宣伝・販路開拓・価格）と8月3日（木）に食味審査を行いました。

審査の結果、「足軽^{あしがるプレミアム}Premium」を最優秀賞（知事賞）、「おもちかすてら」と「絹姫サー^{きぬひめ}モンドイップ」を優秀賞（愛知食品産業振興協会会長賞）に決定しました。

なお、最優秀賞の商品を一般財団法人食品産業センターが主催する「優良ふるさと食品中央コンクール」の愛知県代表として県から推薦しました。本県からの推薦賞品は、本コンクールの最高賞である農林水産大臣賞を1999年以降で9回受賞しています。

1 最優秀賞（知事賞）の概要

商品名	足軽 Premium	
製造者	株式会社秋田製麺所 (西春日井郡豊山町) http://www.akitamen.com/	
希望小売 価格(税込)	432円/袋 (めん180g つゆ40g)	
販売店舗	自社オンラインショップ、自社直売所、(株)明治屋(店舗による)	
主な原材料	めん：小麦粉、塩、つゆ：しょうゆ、合わせだし、名古屋コーチンエキス他	
商品の概要 ・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県西尾市産の栽培期間中除草剤不使用の「きぬあかり Premium」の小麦粉を使用するため、JA西三河と連携し、原料を確保。愛知の麦づくり・麺づくりを全国にPRできる商品。 ・レンジアップ専用の25mmの超巾広冷凍きしめん^{はばひろ}。600W3分のレンジ調理で手軽に美味しく麺が仕上がる。 ・添加物を使用しない希釈タイプのコーチンめんつゆ付き。夏は冷たい「コロきし」で麺のもちもちした食感を味わうことができる。 	
審査講評	<ul style="list-style-type: none"> ・レンジアップとは思えない麺の仕上がりに技術力の高さを感じる。 ・つゆが上品な味付けで大変おいしい。 	

2 優秀賞（愛知食品産業振興協会会長賞）の概要

商品名	おもちかすてら	
製造者	株式会社 <small>あいえずおー</small> I S O コーポレーション (名古屋市守山区) https://omochi-kakumei.com/	
希望小売 価格(税込)	750 円/箱 125g/3 枚	
販売店舗	抹茶文庫 等	
主な原材料	鶏卵、砂糖、もち粉、米粉、本みりん 他	
商品の概要 ・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知のもち米「やわ恋もち」を使用。乳製品・小麦粉不使用のグルテンフリー。 ・小麦粉を使わず、もちもちとした食感を実現。 ・乳幼児でも食べられるようにはちみつの代わりに、愛知の本みりんを使用。 	
審査講評	<ul style="list-style-type: none"> ・乳製品・小麦粉不使用と思えない生地仕上がりに驚く。 	

商品名	絹姫サーモンディップ	
製造者	愛知県淡水養殖漁業協同組合 (北設楽郡設楽町) https://www.tansui.net/	
希望小売 価格(税込)	780 円/瓶 100 g	
販売店舗	道の駅したら、ベジカル(ラグーナ蒲 郡)、ピピッとあいち、自社直売所 等	
主な原材料	食用ごま油、絹姫サーモン、ナッツ 4 種他	
商品の概要 ・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・製造過程で出た絹姫サーモン(ニジマス×アマゴ全雌異質三倍体魚)の端材を有効活用。 ・SDGs の観点から愛知県蒲郡市 <small>みや</small> 三谷水産高校の生徒とレシピを共同開発。 ・原料にこだわり愛知県蒲郡市のドライミカンと竹本油脂株式会社の「太白胡麻油」を使用。 	
審査講評	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に洗練された味。 	

2023 年度愛知のふるさと食品コンテストの他の出品商品については、県の Web ページ「いいともあいち情報広場」に 10 月に掲載します。

2022 年度の出品商品は (<https://www.pref.aichi.jp/book/list/book145.html>) に掲載しています。

愛知県産ブランド米「愛ひとつぶ」について

園芸農産課

愛知県は、県内の大規模稲作経営体やJAあいち経済連などと連携して、「愛ひとつぶブランド化推進協議会」を設立し、愛知県の最上級ブランド米「愛ひとつぶ」のPR活動に取り組んでいます。

1 「愛ひとつぶ」とは

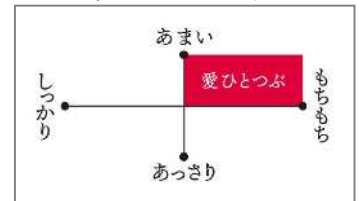
近年、夏場の高温で米粒が白く濁る品質低下が問題となっており、県農業総合試験場が猛暑でも品質が良く、美味しいお米として「なつきらり」を2017年に開発しました。

この「なつきらり」は、登録要件を満たした生産者により限定栽培されており、栽培された「なつきらり」のうち、厳しい品質基準（農産物検査等級1等、玄米タンパク質含有率6.4%以下）を満たしたお米が「愛ひとつぶ」となります。2020年産から一般販売がスタートし、今年で4年目を迎えます。

「愛ひとつぶ」は、上品な甘みともっちりとした食感が特徴のお米です。



「愛ひとつぶ」のブランドマーク



愛知県産「大地の風」との比較グラフ

2 「愛ひとつぶ」の販売

2023年産の新米は、9月1日から県内の量販店などで販売されています。

(1) 取扱予定店

Aコープ、ユニー、イオン、イトーヨーカドー、ヤマナカ、フィール、マックスバリュ、平和堂、ドミー、コープあいち、西友、オークワ、サンヨネ、三河屋、スギ薬局、杏林堂、ベイシア、JA店舗、(なお、取扱店舗は各スーパー等で決めています。)

(2) 販売形態

ブランドマークの入った専用袋（2kg 精米、5kg 精米、5kg 無洗米）
店頭精米方式販売（JAグリーンセンター等）

3 「愛ひとつぶ」のブランド化の取り組み

各種メディアやイベント等を通じて「愛ひとつぶ」のPRを行っています。

(1) テレビCM

愛知県出身の俳優、水野勝さんを起用したテレビCMを放映しています（9月9日から12月15日まで）。

(2) WEBページ

「愛ひとつぶ」専用WEBページで情報を発信しています(<https://ai-hitotsubu.jp/>)。

(3) 知事名刺

県では知事名刺を活用した農産物のPRを行っており、今年度は10月と11月に「愛ひとつぶ」を選定しています。この期間中に生産者らが知事を訪問し、「愛ひとつぶ」のPRを行います。

愛知産青果物の動向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台以内
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋市中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
2022年実績	560	293 (52%)	195	229	愛知(52%) 三重(48%)
2023年見通し	300	—	250	—	—
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知、三重を中心に入荷する。各産地、夏場の高温や強い日射の影響により、日焼け果等の痛みが発生し、昨年より数量減る予想。果実の大きさはやや小玉傾向で、L中心の入荷となる見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>			<p>消費者のニーズに合わせた、食味がよく、品質のよい次郎柿の生産をこれからもお願いしたい。 天候次第で数量が大きく変化するので、出荷状況が変更する場合は、引き続き、市場まで早めにお知らせいただきたい。 新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、人の動きも活発になってきたので、産地からの積極的な売り込みもされたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
2022年実績	2,468	2,084 (84%)	216	217	愛知(84%) 静岡(15%)
2023年見通し	1,500	—	250	—	岐阜(0.4%)
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知を中心に静岡などから入荷する。愛知は例年並みの出荷量を見込んでいたが、夏季の高温により日焼け果が散見されるなど、出荷量は当初の予想を大幅に下回る見込みとなる。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>			<p>「りんご」「みかん」「なし」など競合する果実が豊富な時期にあたる。今年は夏季の高温の影響により、全国的に入荷量が少ない中での販売となる。売り場を確保するためにも、スタートから積極的な販売を仕掛けていく。 日焼け果など、軟化玉が懸念されるので、選果選別の徹底をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の10月の見通し

名古屋中央卸売市場

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	2018年	37,787	234	246	227	223	北海道 40%
	2019年	36,853	195	206	192	185	長野 23%
	2020年	41,811	207	220	205	192	茨城 9%
	2021年	41,018	189	208	177	181	群馬 6%
	2022年	38,386	220	228	225	206	青森 5%
	5カ年平均	39,171	209	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	37,900	211	—	—	—	
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	北海道、長野を中心に入荷する。多くの品目で、夏場の高温や干ばつの影響を受け、播種や定植が遅れており、収量が少なくなる見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや下回る見込み。						
だいこん	2018年	2,662	105	117	93	113	青森 51%
	2019年	2,152	84	92	79	86	北海道 20%
	2020年	2,321	102	118	96	98	千葉 10%
	2021年	2,451	99	125	84	91	愛知 8%
	2022年	2,247	113	137	118	93	新潟 6%
	5カ年平均	2,367	101	117	94	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,000	105	105	105	105	
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	青森、北海道を中心に入荷する。北海道は中旬くらいで切り上がり、青森は10月いっぱいには出荷ある予想。全国的に7、8月の高温干ばつで播種できておらず、10月は出荷量少ない見込み。 入荷量、価格ともに前年をかなり下回る見込み。						
にんじん	2018年	2,262	203	210	207	194	北海道 97%
	2019年	2,464	102	116	104	93	青森 3%
	2020年	2,663	126	127	131	113	
	2021年	2,779	85	93	85	80	
	2022年	2,431	170	174	187	157	
	5カ年平均	2,520	135	140	141	125	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,000	190	190	190	190	
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	北海道を中心に、一部青森からも入荷する。北海道内の気温が高く、品質劣化による正品率が低いため、数量が不安定となる見込み。入荷量が少ないため、価格は高い基準で推移する見通し。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は高値だった前年をかなり上回る見込み。						

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

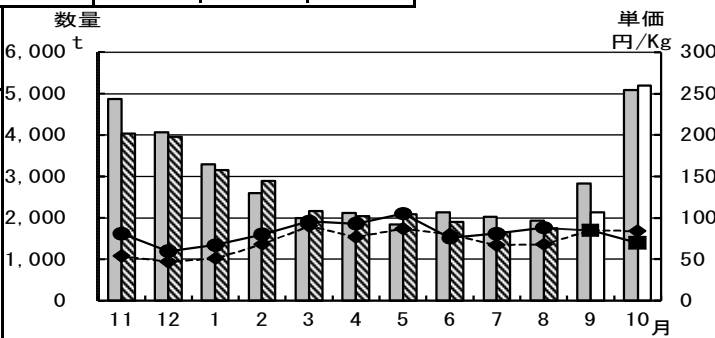
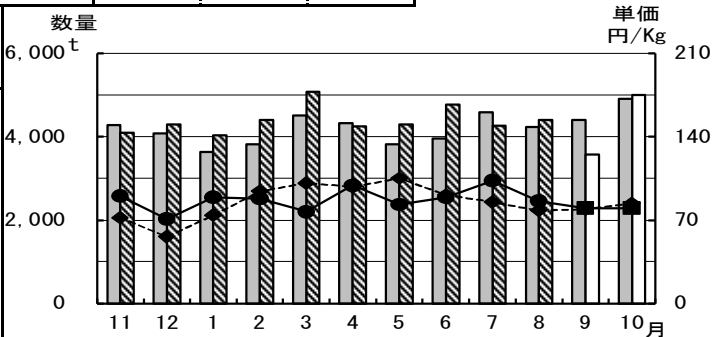
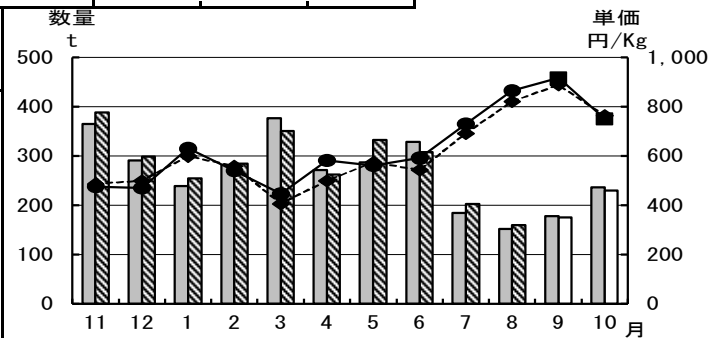
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2018年	134,292	264	271	258	263	北海道 26%
	2019年	135,007	217	227	207	218	茨城 15%
	2020年	136,996	245	260	242	233	長野 13%
	2021年	129,026	211	232	199	204	群馬 12%
	2022年	126,546	246	257	247	237	千葉 10%
	5カ年平均	132,373	237	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	130,000	245	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 高温・干ばつの影響が残り、野菜全般で出回りは多くないと予想される。一部品目で高温による欠株、品質低下がみられる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(+2.7%) 価格：前年並。(▲0.4%)</p>					
だいこん	2018年	12,365	98	107	89	100	千葉 33%
	2019年	11,155	81	89	73	82	青森 32%
	2020年	11,550	98	116	94	85	北海道 21%
	2021年	10,629	91	118	78	82	茨城 6%
	2022年	11,499	99	127	106	76	神奈川 4%
	5カ年平均	11,440	94	111	88	85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	11,000	105	90	110	115	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 入荷先の主体は千葉、青森、北海道となる。高温の影響が残り生育はやや不良。下旬は北海道が終盤で入荷量が減少する。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲4.3%) 価格：前年をかなり上回る。(+6.1%)</p>					
にんじん	2018年	7,809	213	221	206	212	北海道 92%
	2019年	8,306	108	112	110	104	青森 5%
	2020年	9,177	125	128	125	123	中国 2%
	2021年	9,010	76	88	70	72	千葉 1%
	2022年	7,506	173	172	179	169	
	5カ年平均	8,362	136	141	135	133	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7,400	180	175	180	185	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 入荷先の主体は北海道となる。高温による品質低下は改善してくるが、全体の入荷量は平年より少ないと見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲1.4%) 価格：前年をやや上回る。(+4.0%)</p>					

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

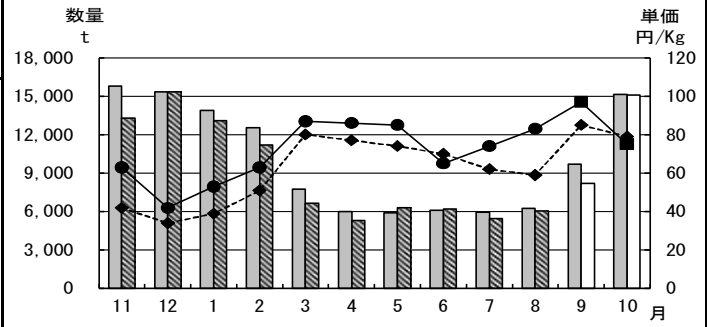
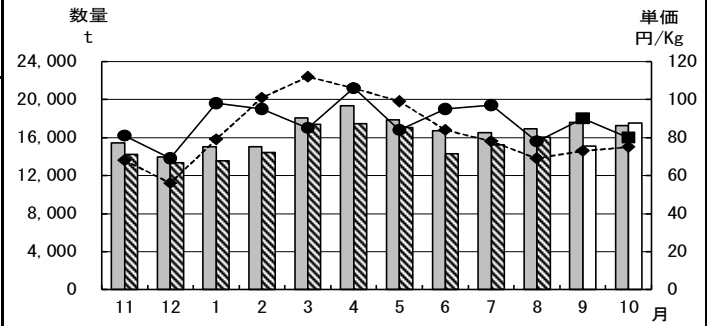
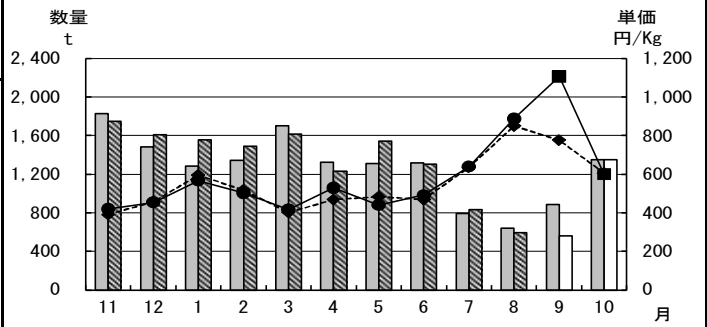
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2018年	4,511	103	143	84	92	長野 98%
	2019年	4,765	57	65	51	56	茨城 1%
	2020年	6,026	67	81	63	59	北海道 1%
	2021年	5,509	60	91	53	50	
	2022年	5,089	84	84	96	74	
	5ヵ年平均	5,180	73	91	69	65	
	2023年見通し	5,200	70	70	70		前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に入荷する。9月下旬から増加予想だが、このまま高温・干ばつ続けば例年より入荷が少ない見込み。茨城は干ばつの中での定植となったため、スタートが遅れる予想。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					 <p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移。数量は11月、12月、1月、2月、3月、4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月の各月別データを示す。単価は同様に各月別データを示す。</p>
キヤベツ	2018年	4,924	92	94	81	107	群馬 38%
	2019年	4,804	75	87	83	61	長野 23%
	2020年	5,154	87	95	95	76	茨城 20%
	2021年	5,388	81	97	77	77	北海道 9%
	2022年	4,913	84	87	81	87	愛知 9%
	5ヵ年平均	5,037	84	92	83	81	
	2023年見通し	5,000	80	80	80	80	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、長野、茨城を中心に入荷する。高冷地(群馬・長野)は、10月中旬で終了見込み。平坦地(愛知・茨城)は、11月以降増加見込みで、愛知は10月中旬、茨城は10月下旬のスタート予想。 入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					 <p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移。数量は11月、12月、1月、2月、3月、4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月の各月別データを示す。単価は同様に各月別データを示す。</p>
ほうれんそう	2018年	218	798	872	818	736	岐阜 65%
	2019年	268	668	679	632	687	茨城 14%
	2020年	250	758	813	729	731	愛知 11%
	2021年	320	585	651	538	586	長野 6%
	2022年	236	765	915	763	686	静岡 1%
	5ヵ年平均	258	705	764	682	681	
	2023年見通し	230	750	750	750	750	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に茨城、愛知などから入荷する。8～9月の高温推移により、秋冬作の播種や準備が遅れ気味で、10月下旬に向かって入荷量は増加傾向。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並の見込み。</p>					 <p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移。数量は11月、12月、1月、2月、3月、4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月の各月別データを示す。単価は同様に各月別データを示す。</p>

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

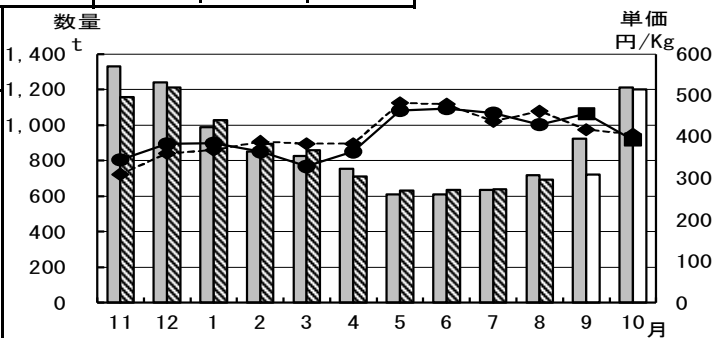
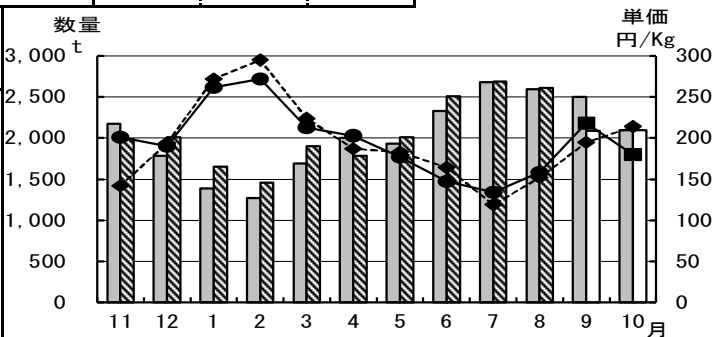
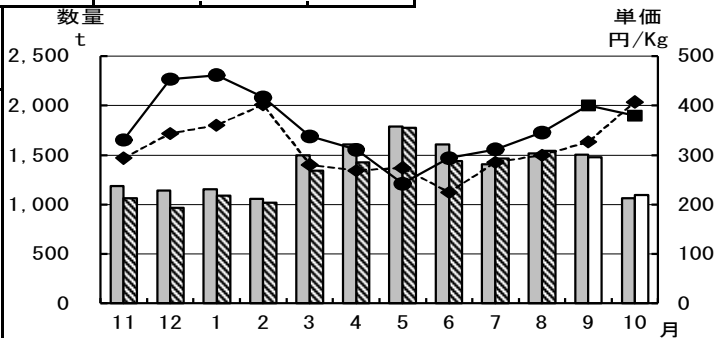
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2018年	17,065	102	138	89	84	長野 69%
	2019年	17,523	57	66	56	52	茨城 22%
	2020年	18,691	68	87	65	53	群馬 5%
	2021年	15,288	63	96	56	51	北海道 4%
	2022年	15,117	79	81	92	64	
	5ヵ年平均	16,737	74	94	71	61	
	2023年見通し	15,100	75	55	70	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			 <p>数量 t 単価 円/kg</p>				
【産地状況】 入荷先の主体は長野、茨城となる。上旬は長野の出荷ピークとなる。後続の茨城が遅れ気味で出回りが少ない場面があるか。							
【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲0.1%) 価格：前年をやや下回る。(▲5.1%)							
キヤベツ	2018年	18,240	87	87	77	98	群馬 54%
	2019年	17,568	74	82	78	63	千葉 18%
	2020年	17,755	90	99	99	74	茨城 12%
	2021年	17,069	77	93	68	69	岩手 9%
	2022年	17,285	75	78	72	75	長野 5%
	5ヵ年平均	17,583	81	88	79	76	
	2023年見通し	17,500	80	95	75	70	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			 <p>数量 t 単価 円/kg</p>				
【産地状況】 入荷先の主体は群馬、千葉、茨城となる。群馬は生育順調。後続の千葉、茨城が遅れ気味で出回りが少ない場面があるか。							
【概況見通し】 入荷量：前年並。(＋1.2%) 価格：前年をかなり上回る。(＋6.7%)							
ほうれんそう	2018年	1,232	662	762	676	586	群馬 46%
	2019年	1,284	571	569	512	626	茨城 23%
	2020年	1,322	628	702	580	610	栃木 16%
	2021年	1,459	498	515	418	578	岩手 3%
	2022年	1,351	606	708	597	555	千葉 3%
	5ヵ年平均	1,330	590	648	553	590	
	2023年見通し	1,350	600	630	590	580	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			 <p>数量 t 単価 円/kg</p>				
【産地状況】 入荷先の主体は群馬、茨城、栃木となる。9月は高温の影響で出回りが少なかったが回復し、中旬に増量する見込み。							
【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲0.1%) 価格：前年並。(▲1.0%)							

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	1,147	471	515	480	435	北海道 46%
	2019年	1,083	394	394	396	395	長野 28%
	2020年	1,155	453	474	455	437	富山 5%
	2021年	1,266	330	368	311	321	中国 3%
	2022年	1,214	407	440	428	373	愛知 3%
	5ヵ年平均	1,173	410	435	412	391	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,200	393	420	400	360	
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道、長野を中心に各産地から入荷する。道産は遅れていた分、増量出荷となる見込み。白ねぎは、長野産高冷地が出揃い増加傾向。高温干ばつの影響で、平年より生育はよくなく、細物が多い予想。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						
しそ	2018年	2,073	207	219	198	203	茨城 53%
	2019年	2,118	162	134	148	216	長野 42%
	2020年	2,380	152	152	154	152	群馬 2%
	2021年	2,512	126	145	97	144	愛知 1%
	2022年	2,096	214	205	209	237	長崎 1%
	5ヵ年平均	2,236	170	169	158	187	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,100	180	190	180	170	
しそ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>茨城、長野を中心に入荷する。茨城は高温により遅れ気味で、10月10日頃ピークの見込み。今後、気温が高く推移すれば、大玉傾向の予想。 入荷量は前年並で、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>						
きゅうり	2018年	1,114	435	417	422	470	群馬 41%
	2019年	1,151	330	259	304	466	長野 16%
	2020年	1,222	450	425	425	509	北海道 12%
	2021年	1,213	299	254	247	432	山梨 11%
	2022年	1,064	408	367	403	462	宮崎 6%
	5ヵ年平均	1,153	384	341	357	469	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,100	380	380	380	380	
きゅうり	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬、長野、北海道などから入荷する。各産地大きな出荷ピークなく、堅調な販売見込み。夏秋産地（北海道）は10月中旬で終了し、促成産地の愛知もスタートするが、まだ定植前のため、今後の台風次第。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	5,703	467	549	472	408	秋田 20%
	2019年	5,596	379	370	386	380	北海道 16%
	2020年	5,924	443	486	452	399	青森 16%
	2021年	5,281	306	325	283	311	茨城 9%
	2022年	5,745	407	325	283	311	山形 8%
	5ヵ年平均	5,650	402	413	377	362	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	5,500	430	450	390	450	
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は秋田、北海道、青森となる。高温による生育不良は気温低下で改善され、入荷量は9月より増える見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲4.3%) 価格：前年をやや上回る。(＋5.6%)</p>						
しそ	2018年	7,879	205	218	196	202	茨城 59%
	2019年	8,139	148	123	134	191	長野 25%
	2020年	8,444	145	145	141	150	群馬 8%
	2021年	8,792	132	148	113	135	栃木 4%
	2022年	8,048	203	191	188	233	長崎 1%
	5ヵ年平均	8,260	166	164	153	181	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	8,100	200	210	210	180	
しそ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は茨城、長野となる。長野は終盤で減少するも後続の茨城が遅れ気味。上中旬に出回りが少ない場面があるか。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(＋0.6%) 価格：前年並。(▲1.5%)</p>						
きゅうり	2018年	5,788	403	376	400	437	群馬 31%
	2019年	6,119	311	235	292	440	埼玉 24%
	2020年	5,505	423	398	407	468	福島 13%
	2021年	5,767	268	222	217	394	茨城 9%
	2022年	5,168	368	321	363	426	宮城 5%
	5ヵ年平均	5,669	353	308	334	433	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	5,500	360	300	310	470	
きゅうり	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は群馬、埼玉、福島となる。東北産は高温による生育不良で下等級の出回りが多く見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり上回る。(＋6.4%) 価格：前年をわずかに下回る。(▲2.2%)</p>						

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	479	466	435	497	474	熊本 31%
	2019年	740	318	308	301	357	愛知 31%
	2020年	604	394	411	374	397	山梨 19%
	2021年	709	275	292	230	318	徳島 8%
	2022年	567	385	400	384	374	群馬 5%
	5ヵ年平均	620	358	356	344	382	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	600	350	350	350		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知、山梨などから入荷する。夏秋作の山梨、徳島、愛知については10月に入りやや回復の見込み。秋冬作の熊本は平年並の入荷で11月から本格化する予想。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
ト マ ト	2018年	1,002	482	505	434	513	岐阜 49%
	2019年	1,145	449	588	399	373	愛知 16%
	2020年	946	530	563	525	494	北海道 12%
	2021年	1,209	359	421	316	364	熊本 11%
	2022年	952	548	553	556	532	三重 5%
	5ヵ年平均	1,051	467	523	433	449	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,000	500	500	500		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
岐阜、愛知、北海道などから入荷する。冬春作がスタートし、夏秋作は終盤を向かえ、徐々に減少見込み。夏場の高温により着花が悪く、入荷量としては多くない予想。入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。							
ニ ン ジ ン	2018年	458	909	934	933	866	北海道 32%
	2019年	503	889	1,013	918	707	熊本 25%
	2020年	480	990	953	1,083	949	愛知 24%
	2021年	558	739	959	743	571	茨城 14%
	2022年	507	929	975	922	904	長野 2%
	5ヵ年平均	501	887	966	906	789	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	480	930	930	930		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道を中心に熊本、愛知などから入荷する。北海道は終盤を迎え、熊本・愛知は出荷がスタートする。8月から高温が続く、残暑も長いため、枝への負担が大きく夏秋の終盤に影響し、収量減少見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。							

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	2, 804	436	391	465	450	高知 35%
	2019年	3, 511	328	302	309	374	群馬 22%
	2020年	3, 158	411	411	402	419	栃木 18%
	2021年	3, 582	273	269	233	329	茨城 14%
	2022年	3, 065	337	269	233	329	福岡 4%
	5ヵ年平均	3, 224	353	325	323	378	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	3, 100	360	300	360	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は高知、群馬等となる。主な産地は関東から西南暖地へ移行する。高知は生育順調。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(+1.1%) 価格：前年をかなり上回る。(+6.8%)							
ト マ	2018年	5, 819	485	470	454	542	千葉 20%
	2019年	5, 963	453	555	389	408	北海道 14%
	2020年	4, 933	558	585	544	537	福島 12%
	2021年	5, 825	398	434	367	396	茨城 11%
	2022年	5, 056	532	516	530	551	熊本 9%
	5ヵ年平均	5, 519	481	510	452	483	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	5, 000	540	560	500	560	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は千葉、北海道等となる。入荷量は中旬に関東産が増えてまとまるが、下旬は北日本産が終了し減少する。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲1.1%) 価格：前年並。(+1.5%)							
ニ ン ト マ	2018年	1, 810	855	857	876	831	北海道 17%
	2019年	1, 938	855	1,017	863	715	茨城 16%
	2020年	1, 711	971	951	1,046	928	千葉 15%
	2021年	2, 058	714	900	729	564	熊本 15%
	2022年	1, 797	907	921	907	893	愛知 10%
	5ヵ年平均	1, 863	855	929	878	778	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1, 800	900	900	900	900	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は北海道、茨城等となる。上旬より秋冬作の入荷が開始する一方、抑制作は終盤に向かう。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(+0.1%) 価格：前年並。(▲0.8%)							

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	376	577	531	547	660	茨城 47%
	2019年	525	393	428	400	393	北海道 12%
	2020年	404	599	586	636	601	青森 10%
	2021年	474	299	389	304	288	宮崎 8%
	2022年	485	426	421	421	506	岩手 7%
	5ヵ年平均	453	448	469	450	473	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	400	533	450	500	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
茨城、北海道、青森を中心に入荷する。8月の猛暑の影響で作柄はよくなく、少なめの出荷見込み。夏秋産地ほぼ終了で、茨城中心の販売となる見通し。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							
ばれいしょ	2018年	2,661	112	121	107	107	北海道 100%
	2019年	2,586	85	84	85	84	
	2020年	3,339	116	112	118	117	
	2021年	2,376	176	178	169	179	
	2022年	2,569	109	108	108	106	
	5ヵ年平均	2,706	118	119	117	117	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,600	115	115	115	115	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道からほぼ全量を入荷する。夏場の高温の影響で圃場での品質が低下し、通年ならば出荷ピークであるが、全国的にイタミが多く、荷の回転は早い予想。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。							
たまねぎ	2018年	6,915	90	97	91	86	北海道 99%
	2019年	5,684	75	75	79	75	
	2020年	7,225	72	74	73	70	
	2021年	6,848	109	102	109	116	
	2022年	6,731	96	102	100	92	
	5ヵ年平均	6,681	89	90	91	87	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6,800	96	96	96	96	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道からほぼ全量を入荷する。北海道全体で昨年より少ない収穫量だが、順調な出荷を見込む。府県産の加工向けの残量が多かったが、10月には北海道に切り替わり、大きさはL大・L中心となる予想。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。							

東京都中央卸売市場

9月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	2, 0 1 9	4 9 8	458	456	592	茨城 59%
	2019年	2, 2 1 1	3 6 6	367	350	378	岩手 22%
	2020年	1, 8 9 8	5 5 9	539	576	566	福島 9%
	2021年	2, 4 6 5	2 5 5	300	213	254	青森 3%
	2022年	2, 1 1 9	3 6 6	313	349	437	高知 3%
	5カ年平均	2, 1 4 2	4 0 0	389	378	435	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2, 0 0 0	4 1 0	430	390	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は茨城、岩手となる。中旬に茨城の数量がまとまるが、高温の影響で全体量は平年より少ないと見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲5.6%) 価格：前年をかなり上回る。(＋12.0%)							
ばれいしょ	2018年	6, 8 2 2	1 1 7	121	118	111	北海道 100%
	2019年	7, 6 5 1	9 2	91	92	91	
	2020年	8, 5 0 6	1 2 5	121	124	131	
	2021年	6, 0 4 7	1 8 1	183	180	179	
	2022年	7, 2 5 7	1 0 9	116	108	106	
	5カ年平均	7, 2 5 7	1 2 3	124	122	122	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7, 3 0 0	1 0 5	105	105	105	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は北海道となる。干ばつの影響でやや小玉傾向であるが、十分な入荷量が見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(＋0.6%) 価格：前年をやや下回る。(▲3.7%)							
たまねぎ	2018年	1 0, 3 0 2	1 0 1	102	101	101	北海道 98%
	2019年	9, 7 5 5	8 1	81	82	81	中国 2%
	2020年	1 0, 4 9 6	7 7	78	76	76	
	2021年	8, 8 4 4	1 1 9	112	120	125	
	2022年	9, 4 6 2	1 0 4	108	104	101	
	5カ年平均	9, 7 7 2	9 6	96	96	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	9, 6 0 0	1 0 0	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は北海道となる。小玉傾向で出回りのサイズはLとL大中心となり、2Lは少ない見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(＋1.5%) 価格：前年をやや下回る。(▲3.8%)							

名古屋市中央卸売市場

9月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	10,574	326	369	324	304	和歌山 18%
	2019年	10,078	329	369	331	306	長野 16%
	2020年	10,624	359	408	348	334	フィリピン 15%
	2021年	9,929	372	421	359	352	三重 10%
	2022年	10,913	369	423	361	347	熊本 8%
	5ヵ年平均	10,424	351	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	10,500	370	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、りんご、かきなどが主な品目となる。りんごの中生種については、高温、日焼けの影響で正品率が悪い予想。なしは、春先の霜や9月の高温により生理落下もあり、晩生種が少なくなる見込み。果実全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。			<p>果実全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>			
みかん	2018年	3,246	250	224	187	148	三重 34%
	2019年	2,981	243	261	243	236	熊本 25%
	2020年	3,257	256	273	251	254	和歌山 17%
	2021年	3,229	230	240	225	234	静岡 14%
	2022年	2,875	270	282	273	261	愛知 5%
	5ヵ年平均	3,118	249	255	235	226	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	3,200	255	270	260	250		
りんご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	三重、熊本、和歌山などから入荷する。極早生については、九州を中心に例年よりやや小玉で数量はやや増加する見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。			<p>入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>			
かき	2018年	2,068	263	303	258	254	和歌山 75%
	2019年	1,913	243	272	235	244	岐阜 11%
	2020年	1,970	280	298	262	294	愛知 8%
	2021年	1,636	299	302	296	323	三重 4%
	2022年	2,022	279	323	272	272	奈良 2%
	5ヵ年平均	1,922	272	300	264	276	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	1,800	280	290	280	260		
柿	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	和歌山を中心に岐阜、愛知などから入荷する。和歌山、奈良は昨年並の出荷見込み。高温によるヤケ果が多く、柿全体に日焼果が心配。岐阜の次郎柿は前年の3割減の見込み。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。			<p>注：前年の4～7月、本年の5～7月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記</p>			

東京都中央卸売市場

9月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	41,391	330	360	327	305	和歌山 16%
	2019年	40,389	335	372	331	308	青森 11%
	2020年	40,562	377	419	358	350	長野 8%
	2021年	35,917	394	428	376	378	熊本 8%
	2022年	40,009	383	424	379	357	奈良 7%
5ヵ年平均	39,654	363	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2023年見通し	39,000	390	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地概況】 みかん、かき、りんごを中心に入荷する。りんごは高温の影響で日焼け果、着色遅延が見られ、入荷量は減少する見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(▲2.5%) 価格：前年並。(＋1.8%)</p>						
みか	2018年	12,976	237	251	236	227	熊本 27%
	2019年	11,691	221	238	221	209	愛媛 20%
	2020年	12,185	242	253	232	241	長崎 20%
	2021年	11,486	210	208	198	222	佐賀 14%
	2022年	10,674	246	252	239	248	和歌山 13%
5ヵ年平均	11,802	231	241	225	229	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2023年見通し	11,000	230	240	220	230		
かん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地概況】 熊本、愛媛、長崎などから極早生中心に入荷する。極早生みかんは高温の影響により小玉傾向だが、品質良好となる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(＋3.1%) 価格：前年をかなり下回る。(▲6.5%)</p>						
かき	2018年	9,192	258	278	243	258	和歌山 49%
	2019年	8,410	247	266	231	245	奈良 26%
	2020年	8,710	290	289	269	311	新潟 7%
	2021年	8,003	305	299	291	330	愛知 7%
	2022年	10,268	272	300	265	263	福岡 4%
5ヵ年平均	8,917	274	287	259	280	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2023年見通し	8,000	300	310	290	300		
柿	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地概況】 和歌山から刀根早生、平核無、岐阜から富有柿を中心に入荷する。高温の影響により日焼け果が見られる。 【概況見通し】 入荷量：前年を大幅に下回る。(▲22.1%) 価格：前年をかなり上回る。(＋10.3%)</p>						

注：前年の4、5月、本年の5、6月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記

切花・鉢花の10月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 9月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	分				
輪 ぎ	実績	2018年	1, 4 6 8	6 7	
		2019年	1, 2 3 2	5 7	
		2020年	1, 2 3 0	5 0	
		2021年	1, 2 5 0	5 5	
		2022年	9 9 4	6 6	
	5カ年平均	1, 2 3 5	5 9		
2023年見通し		9 5 0	6 5		
概要	愛知、長野を中心に入荷。長野は中旬頃には出荷終了の見込み。愛知は上旬は少ないが、中旬以降は少しずつ出荷が増加するものの、全体量は少ない見込み。				
小 ぎ	実績	2018年	7 6 5	3 9	
		2019年	6 1 0	3 2	
		2020年	6 2 1	3 8	
		2021年	6 3 0	3 8	
		2022年	6 4 8	4 8	
	5カ年平均	6 5 5	3 9		
2023年見通し		6 0 0	5 0		
概要	愛知、長野などから入荷。夏場の暑さの影響もあり、品質、入荷は不安定。中旬から下旬にかけては少しずつ品質も良くなってくると思われるが、入荷量は少ない見込み。				
カー ネー シ ョ ン	実績	2018年	1, 3 5 1	4 1	
		2019年	1, 1 2 4	4 3	
		2020年	9 3 8	4 6	
		2021年	1, 1 0 0	4 5	
		2022年	9 9 4	5 4	
	5カ年平均	1, 1 0 1	4 5		
2023年見通し		9 5 0	5 5		
概要	長野、愛知、輸入中心に入荷。残暑の影響か、高冷地の切上りは例年より早く、西南暖地の全体量は例年より多く早い。中旬まで丈の取れるものが少なくなる見込みで、丈が必要な需要には輸入対応せざるを得ない場面もありうる。				
か す み 草	実績	2018年	1 0 0	1 2 0	
		2019年	8 9	1 6 5	
		2020年	8 5	1 4 6	
		2021年	1 0 2	1 3 3	
		2022年	9 0	1 4 0	
	5カ年平均	9 3	1 4 0		
2023年見通し		9 0	1 4 0		
概要	福島、長野からの入荷となる。前進出荷と気温低下により入荷量は減少していく。中下旬から西南暖地の出荷も始まりそう。				

単位：千本、円／本

品目	区		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	分				
ゆり	実績	2018年	324	161	
		2019年	293	161	
		2020年	256	182	
		2021年	280	175	
		2022年	213	209	
	5カ年平均		273	175	
	2023年見通し		220	200	
概要	<p>オリエンタルは新潟、埼玉、岐阜、愛知、高知、宮崎、北海道から入荷する。中下旬から暖地作の入荷もまとまってきた。LA、鉄砲は中旬以降暖地作が増えていく。</p>				
洋らん	実績	2018年	585	69	
		2019年	406	73	
		2020年	298	100	
		2021年	350	80	
		2022年	292	123	
	5カ年平均		386	85	
	2023年見通し		300	120	
概要	<p>愛知、静岡、鹿児島、輸入が入荷する。コショウランは輸入中心に微減の見通し。カトレアは月末かけて入荷増の見込み。デンファレはアンナ中心に入荷増、オンシジウムは上位等級が減って下位等級が増える。</p>				
ばら	実績	2018年	884	73	
		2019年	834	75	
		2020年	682	73	
		2021年	662	80	
		2022年	680	80	
	5カ年平均		748	76	
	2023年見通し		660	80	
概要	<p>愛知、岐阜、三重、山形、輸入も入荷する。夏場短茎だった物も徐々に長さを取り戻す。前半は国内産中心にやや品薄感がある模様。</p>				
枝も	実績	2018年	1,488	48	
		2019年	1,442	56	
		2020年	1,281	53	
		2021年	1,198	56	
		2022年	1,200	55	
	5カ年平均		1,322	53	
	2023年見通し		1,150	55	
概要	<p>高温、干ばつの影響から入荷は少なめに推移する。特に紅葉物は色付きが悪い。秋の草花などは前進のため、終了も早い。柳類などは順調な出荷が見込まれる。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ	実績	2018年	16,157	710	
		2019年	15,430	831	
		2020年	25,191	764	
		2021年	18,028	1,123	
		2022年	20,223	1,069	
	5カ年平均		19,006	899	
	2023年見通し		18,000	800	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。輸入原木が、円安による仕入単価の高騰もあり、生産者の仕入れが厳しくなっているため、年々出荷量は減少傾向の見込み。特に大きいサイズの商品は減少と思われる。品目では、ユッカ・マッサン・コンシンネが中心の出荷で4号～8号までのサイズが中心と思われる。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（59.0%）、2位鹿児島（13.1%）、3位沖縄（10.4%）となっている。</p>				
シヤコバサ	実績	2018年	39,614	400	
		2019年	34,347	421	
		2020年	34,322	437	
		2021年	32,956	449	
		2022年	30,773	485	
	5カ年平均		34,402	436	
	2023年見通し		30,000	483	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。サイズでは4～5号が中心の出荷になる見込み。6号以上の競売出荷は減少する見込み。出荷時の蕾の固さは、固すぎ、進み過ぎの状態は敬遠されるので注意が必要。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（81.1%）、2位埼玉（10.4%）、3位栃木（7.6%）となっている。</p>				
シクラメン	実績	2018年	578,858	188	
		2019年	531,062	178	
		2020年	549,026	186	
		2021年	542,283	187	
		2022年	614,502	209	
	5カ年平均		563,146	190	
	2023年見通し		605,000	215	
概要	<p>入荷量は前年並か。10月初旬より出荷のピークとなるガーデンシクラメンを中心に、4号、5号サイズが徐々に増え始める。資材費高騰などで生産原価が上がっているため、注文価格が前年よりやや値上げ傾向にある。台風や残暑などの天候にも左右されるが、価格は前年よりも安定する見込み。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位長野（29.7%）、2位愛知（28.5%）、3位北海道（10.4%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シンビジュウム	実績	2018年	2, 8 4 4	1, 7 5 7	
		2019年	3, 9 7 6	1, 6 6 2	
		2020年	2, 2 2 5	1, 2 6 5	
		2021年	4, 9 6 8	1, 4 3 9	
		2022年	3, 2 7 5	1, 8 0 3	
	5カ年平均		3, 4 5 8	1, 5 8 9	
	2023年見通し		3, 2 0 0	1, 7 8 1	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。廃業や作付けを減らしている生産者が多い。また、近年の10月の高温により、消費者が購入した後の葉の持ちは良くない。そのため、10月の出荷は殆どない見込み。養蜂に使う特殊な品種は例年並に出荷がある見込み。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（80.4%）、2位長野（5.7%）、3位静岡（4.0%）となっている。</p>				
カラッコ	実績	2018年	4 2, 3 1 4	1 9 6	
		2019年	3 4, 4 1 3	1 9 1	
		2020年	2 6, 3 2 0	2 2 9	
		2021年	2 7, 9 5 0	2 2 3	
		2022年	2 6, 2 1 9	2 4 2	
	5カ年平均		3 1, 4 4 3	2 1 3	
	2023年見通し		2 6, 0 0 0	2 4 2	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。以前から続く高温・猛暑の影響から生育の遅れや腐りが出ている。そのため、上旬は4～6号の出荷が少なく、気候が落ち着いた中旬から出荷が落ち着く見込み。八重・一重ともに良品の引き合い有り、人気生産者の商品は特に引き合い強い見込み。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（53.1%）、2位岐阜（27.4%）、3位愛知（9.0%）となっている。</p>				
パンジー	実績	2018年	5 6 3, 9 8 8	5 4	
		2019年	5 2 8, 5 2 9	4 8	
		2020年	5 1 4, 6 4 0	5 5	
		2021年	5 8 7, 2 7 8	5 0	
		2022年	5 2 0, 5 7 0	6 3	
	5カ年平均		5 4 3, 0 0 1	5 4	
	2023年見通し		5 0 0, 0 0 0	5 5	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。暑さ対策から播種を遅らせたり、暑さによる生育遅れもあり、前半の花付き苗は特に少ない見込み。</p> <p>前年10月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（28.4%）、2位奈良（13.5%）、3位長野（11.5%）となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.604
2023年10月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434